

NO37

旧北伊勢陸軍飛行場^{えんたい}掩体

所在地は鈴鹿市三畑町（鈴鹿市コミュニティバス「三畑」下車徒歩25分）



戦時中、鈴鹿市には数多くの軍施設が置かれたことが知られていますが、鈴鹿市広瀬町から亀山市能褒野町^{のぼの}にかけて建設された北伊勢陸軍飛行場掩体もその1つです。

1944年以降、日本本土への空襲が激しくなると、各飛行場では航空機を避難させるための格納施設(掩体)が周辺に数多く造られるようになりました。

その多くは周囲を土堤状に囲み、上部を木などで覆っただけの簡素なものでした。

三畑町に残るこの掩体は北伊勢陸軍飛行場の北東部に位置し、コンクリート製の非常に珍しいものです。

横幅29m、奥行23m、高さ4.4m、戦闘機まるごと3機分が収納できる大きさになっています。

この掩体は1度も使用されたことはありませんでしたが、このようなコンクリート製のものは三重県下ではここだけであり、全国的に見ても大変珍しく、2003年、国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

20061015 掲載

(※2016.4時点で、写真の差し替えと一部修文をしてあります)